



# 令和 年度 技術士第二次試験答案用紙

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

概観する巨視的分析を行った上で、水災害リスクが相対的に大きい地域に対して詳細に分析を行う等効率的に作業が進められるよう工夫する。

## (3) 防災まちづくりの方向性の検討

前述により評価した各地域の水災害リスクに加えて、都市構造、都市機能上の必要性、都市の歴史的な形成過程等も踏まえて、防災まちづくりの方向性を定める。

## (4) 水災害リスクの軽減・回避対策の検討

前述の方向性を実現させるため、リスク評価により明らかになった水災害リスクが存在する区域について、水災害リスクを軽減又は回避するための対策を検討する。検討にあたり、ハザードに対する対策や暴露及び脆弱性を小さくする対策について、河川・流域に応じてハード・ソフト効果を組み合わせる等の工夫を行う。

## (5) 目標設定

前述の対策を計画的に実行するため、防災まちづくりの目標を設定する。設定にあたり、都市計画や河川整備計画の計画期間や取組内容の進捗度を意識し、短期・中期を含めた段階的なものになるよう留意する。

## 3. 関係者との調整方策

関係機関等においては、客観的な情報に基づき協議を行う。住民に対しては、自治体の一方的な情報提供だけでなく、各地区における住民の能動的参加を促すため、まち歩きや懇話会等の実施を通じて双方向の意見交換を行い調整する。以上